

医動物学実習

科目責任者 室 山 良 介
学年・学期 2 学年・3 学期

I. 前 文

主要な寄生虫（病）の形態、生活史、病理、検査・診断、疫学的問題等について、実物や画像、動画視聴を通して修得する。代表的な寄生虫（マラリア原虫、回虫、住血吸虫類、日本海裂頭条虫など）や衛生動物（マダニ、シラミ類、ヘビなど）を題材とし、形態からその虫種および、その虫種による病害を説明できるように学修する。

本科目を通して、臨床現場で寄生虫症を疑い、鑑別することのできる知識を修得することが期待される。

なお、実習項目の順番は都合により変動することがあるが、実習開始前にアナウンスする。

II. 担当教員

教授 室 山 良 介 微生物学
講師 石 川 知 弘 微生物学
講師 布 矢 純 一 微生物学
講師 桐 木 雅 史 微生物学
助教 佐 藤 洋 隆 微生物学
助教 福 士 耕 内科学（消化器）（特別講師：線虫性疾患）

III. 一般学習目標

- ・人体に寄生し、病害を与える原虫類・蠕虫類の形態、生態、発育史および感染経路を理解し、それらに起因する疾病の基本的病態、診断、治療、予防について基礎的知識を習得する。また、ヒトの健康に直接間接に関わる衛生動物の主な種類、形態、病害、治療、疫学的問題点についても習得する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 寄生虫の生物学的特性、すなわち分類、形態、構造、機能、生活環を説明できる。
- 2) 寄生虫性疾患における病原体の伝播様式と予防法について説明できる。
- 3) 原虫類、蠕虫類感染とそれらによる病態を「宿主-寄生虫関係」の面から説明できる。
- 4) 寄生虫症の検査・診断について説明ができる。
- 5) 寄生虫性疾患の疫学的問題点を説明できる。
- 6) 主な衛生動物の種類と、その衛生動物がもたらす病害を説明することができる。

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2: ディスカッション、ディベート 3: グループワーク 4: 実習、フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブラーニング
1	11	30	月	4	線虫性疾患	全 教 員	4
2				5			
3	12	1	火	4	吸虫性疾患	全 教 員	4
4				5			

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
5	12	2	水	4	糸虫性疾患	全 教 員	4
6				5			
7	12	3	木	4	原虫性疾患	全 教 員	4
8				5			
9	12	4	金	4	衛生動物	全 教 員	4
10				5			

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験（80%）、ワークシート（20%）の比率で評価する。

不適切な受講態度が見受けられた場合には減点対象となることがある（10%以内）。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

微生物学講座で作成した実習ワークシートを配布する。

特に指定しないが、以下のものが教科書としてあげられる。

- 1) 図説 人体寄生虫学, 改訂10版 (吉田幸雄原著, 図説人体寄生虫学」編集委員会編, 2021, 南江堂)
- 2) 標準微生物学, 15版 (錫谷達夫, 松本哲哉編, 2024, 医学書院)
- 3) 標準皮膚科学, 12版 (石河晃, 奥山隆平, 阿部理一郎編, 2025, 医学書院)

VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：桐木 (kirinoki@dookyomed.ac.jp) にアポイントをとる。

微生物学講座（総合教育研究棟8階804号室）月～金曜日 8：30～17：00

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養, 利他の精神, 医師に求められる品格を身につけ, 豊かな人間性を育み, 他の医療者と協調して, 多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び, 情報・科学技術を活用して, 生涯にわたって自ら問題を発見し, 解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と, その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し, 課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み, 医学・医療の進歩に貢献することができる	○

- X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
試験問題は公開しないが、問題の解説をLMSを通じて公開する。
- XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間
【求められる事前学習】（所要時間：実習内容ごとに20分程度）
・シラバス別冊の要点およびLMSの事前学習資料に取り組む。
【求められる事後学習】（所要時間：実習内容ごとに30分程度）
・LMSの事後学習に取り組む。
- XII. コアカリ記号・番号
PS-01-03-13
PS-01-03-16
PS-01-03-17
PS-03-05-09